

この人

県獣医師会長に就任した

すぎやま かずとし
杉山 和寿さん

(静岡市清水区)



6月の総会で13代目の会長に選出された。日本が「狂犬病清浄国」であり続けるための臨床研究会設立や、犬猫の感染症情報を共有して人の対策にも貢献する「獣医療ネットワーク」への加入など、全国の獣医師との活動に長年取り組んできた。静岡市清水区、65歳。
—就任の抱負を。

「人と動物が共生できる社会を目指したい。具体的な課題としては、狂犬病や新型コロナウイルスをはじめとする人獣共通感染症への対策や災害時の被災動物の対応、獣医師の診断力向上などがある。会で課題意識を共有しつつ、社会を支える獣医師の活動を発信したい」

—会はどのような組織か。

「1948年に設立された公益社団法人で、会員は約630人。全国的に見ても大所帯だが、人口減少で会員数は減っている。獣医療ネットワークや獣医師の研修など、会員と社会の双方にメリットがある事業を通じて会の存在感を確立したい」

—獣医師の連携事例は。

「獣医療ネットワークは19種類の人獣共通感染症について、犬や猫が感染した地域を共有する仕組みで、局地的な感染状況、人へのリスクを把握できる。県内では静

岡、浜松両市の獣医師会が加盟していて今後は全県に拡大したい。また狂犬病は国内に症例数がほぼなく、診断の根拠となる知見や、海外の最新情報の共有などに努めている」

—地域貢献の取り組みは。

「補助犬の健康診断や、退職した獣医師による野生イノシシや野鳥が不審死している通報を受けた際の調査などにも地道に取り組んできた。獣医師が子どもの憧れの職業となって、志す人が一層増えるよう、会の魅力を内外に発信していきたい」 (大須賀伸江)